

中国のお年寄りと老後

岡山県上海事務所 専任スタッフ 馬 小琳

日本の「敬老の日」にあたる「重陽節」

中国で日本の「敬老の日」にあたるのが、旧暦の9月9日（新暦の11月1日）の「重陽節」です。元々は、邪気を払い長寿を願って、菊の花を飾ったり、菊の花びらを浮かべたお酒を飲んだりする西漢時代から続く年中行事のひとつでしたが、時代の流れとともに新たな意味を持つようになり、1989年に中国政府が旧暦の9月9日を「お年寄りの日」と定めたことから、現在の「重陽節」は、伝統文化を継承し、お年寄りを敬い支える日となりました。



早朝の公園で太極拳を楽しむ上海のお年寄り

上海だけでも毎年5万人増える高齢者

現在、上海には、250万人の60歳以上の高齢者が暮らしています。しかも、その数は、毎年5万人ずつ増えています。農村からの人口流入や上海の広域化と同時に、現在の勢いのまま高齢化が進展すると、2010年から2020年までの間に新たに150万人のお年寄りが増えると予想されています。このような状況の中、上海で

暮らしているお年寄りたちは、どのような生活をしているのでしょうか。

中国経済の発展に伴い、高齢者福祉のレベルも10年前よりはるかに上がりました。地方政府から福祉サービスや医療保障を受けることができ、定年を迎えた人は毎月一定額の年金（平均約1,500元）を受け取っています。この年金は日本の厚生年金に相当します。また、日本の国民年金に相当する制度により、自営業者だったお年寄り等にも年金が支給されます。

中国には「百善孝為先」（親孝行することは一番の善という意味）という言葉があり、子供は自分の親と一緒に暮らし、親の面倒を見ることが親孝行の基本だと考えられています。お年寄りは長年住み慣れてきた環境の下で生活をし、自宅で晩年の生活を送るケースが多いようですが、最近、上海のような大都市では、自宅での生活を基本としながら、社区（日本の区や町にあたる）に養老サービスを依頼する、「社区養老」と呼ばれる方式も人気を集めています。



池のほとりで合唱を楽しむ上海のお年寄り

全国の高齢者の7割超が農村に集中

中国では高齢化が進み、9人に1人が高齢者となっています。農村の高齢化は都市より進んでおり、全国の高齢者人口の7割超を農村の高齢者が占めています。にも関わらず、大都市に暮らすお年寄りの恵まれた環境に比べ、農村に住むお年寄りの生活環境は楽ではありません。

農村からの出稼ぎ者は実家の両親から遠く離れ、あるいは他の都市に移住する人が多く、こうした中、農村に老人が一人で暮らす「留守老人」と呼ばれる農村特有の現象が生まれています。また、農村では、まだ大都市のように医療機関やサービス施設などが普及していません。そのため、持病を抱えるお年寄りや「留守老人」は、病気の治療に速やかに対応できません。

こうした農村に住むお年寄りの生活を改善することは、目前に迫っている課題といえます。私たちもいつかは年を取りますが、自身の幸せな老後の生活を願うと同時に、現在の高齢化問題を真剣に考え、社会全体で力を入れて解決していく必要があります。

(2009年 11月)